

佐賀市 17 歴史探訪

願正寺の時鐘

現代の私たちが時間を知るには、腕時計や街角の時計、最近では携帯電話の時刻表示を見るなどの方法があります。

江戸時代、城下町佐賀の人々は、どのようにして時刻を知ったのでしょうか。

佐賀城下では、佐賀城本丸の「時太鼓」で藩士の登城を知らせ、願正寺の「時鐘」で日常生活の時刻を知らせていました。

願正寺の「時鐘」は記録によると、元禄9年(1696年)の8月から始められ、藩庁から維持管理経費として米10石を支給されていました。

現在、願正寺にある鐘楼(鐘撞き堂)は明和5年(1768年)に再建されたもので、その建設経費は万人講(現在の宝くじのようなもの)の利益が充てられました。願正寺の「時鐘」は安政元年(1854年)まで佐賀城下の人々に時を告げていましたが、鐘の響きが悪くなったという理由で廃止され、その後は、白山の八幡宮(現在の龍造寺八幡宮)境内で撞くようになりました。

願正寺の鐘楼は、佐賀城堀の石垣に使われているものと同じ、「赤石」の切石積みの基礎の上に建ち、上層には欄干を巡らしている優美な建造物です。願正寺にいらっしゃった時には、「時の鐘」に思いをさせ、心の中で藩政期の音色を聴いて見ませんか。

一口メモ

・現在の「時間」は「定時法」であり、1年を通して、1時間は60分となっていますが、藩政期には「不定時法」が用いられており、季節や昼夜によって時間の長さが違います。ちなみに、夏至の昼間には一時(いっとき)が約2時間40分、冬至では約1時間50分ぐらいになっていました。(昼間の一時の長短に伴い、夜の一時の長短も変化する)

・願正寺では、時間の長さを知るために、「香番所」が設けられていました。ここでは線香の燃える速度で時間を計っていました。

・現在の鐘は、昭和24年に京都で造られたもので、毎夕5時には城下町佐賀に響いています。また、12月31日には一般市民の方でも、除夜の鐘をつくことができるそうです。



▲願正寺の本堂



▲鐘楼



▲鐘楼の「赤石」積みの基礎

